

化学で夢のお手伝い

BUSINESS REPORT

Your Dream Is Our Business

第168期 中間期 株主通信
2025年4月1日～2025年9月30日

証券コード 4112

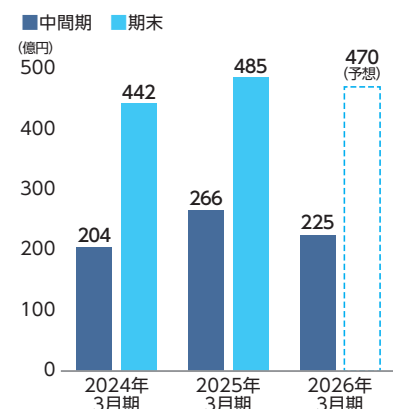
企業価値向上に向けて、
果敢に投資を実行し
新たな領域へ。

保土谷化学工業株式会社
代表取締役社長

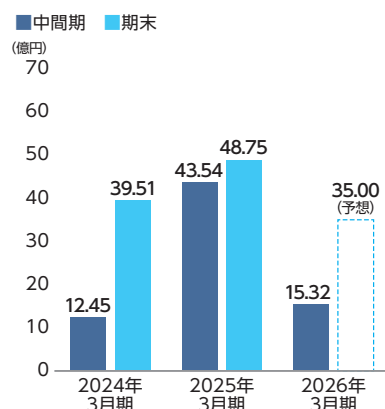
松本祐人

業績ハイライト

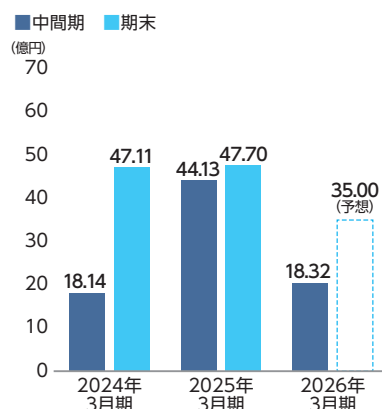
売上高



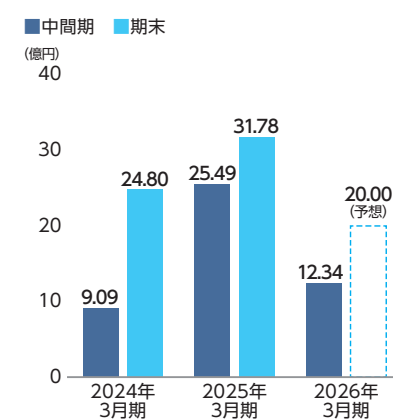
営業利益



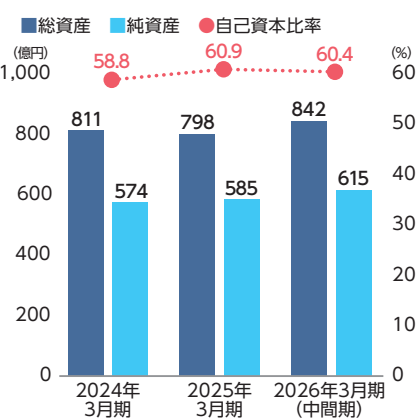
経常利益



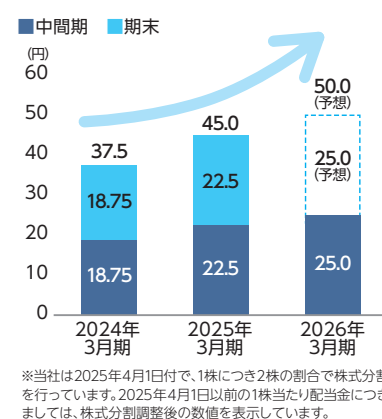
親会社株主に帰属する中間(当期)純利益



総資産・純資産



1株当たり配当金



※当社は2025年4月1日付で、1株につき2株の割合で株式分割を行っています。2025年4月1日以前の1株当たり配当金につきましては、株式分割調整後の数値を表示しています。

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社グループは、中期経営計画「SPEED 25/30」(2021～2025年度)を推進し、企業価値向上に向けて取り組んでおります。

2025年度上期の当社グループの概況につきましては、特に機能性色素セグメントにおける有機EL材料において、前年同期にスマートフォンやタブレット端末向け需要が一時的に集中したことの反動により売上高は22,546百万円(前年同期比15.3%減)、営業利益は1,532百万円(同64.8%減)、経常利益は1,832百万円(同58.5%減)、親会社株主に帰属する中間純利益は1,234百万円(同51.6%減)となりました。

通期の見通しにつきましては、機能性色素セグメントにおける有機EL材料の販売が当初の想定ほど伸びず、第2四半期累計の当社業績が計画を下回ったこと等により、2026年3月期の売上高、営業利益、経常利益、当期純利益は前回発表に比べ減収減益の見込みとなることから、売上高470億円、営業利益35億円、経常利益35億円、親会社に帰属する当期純利益20億円に業績予想の修正を行いました。

2025年度の中間配当金につきましては、株主資本配当率(DOE)を意識しつつ、安定的且つ継続的に適正な還元を行うべく、当初の予想どおり1株当たり25円といたしました。なお、足元の事業環境は依然として不透明な状況が続いており、業績予想は当期の事業進捗等を踏まえて修正いたしましたが、2025年度の期末配当につきましては、当初予想のまま、2024年度期末比で2.5円増となる1株当たり25円とする予定です。

現在、当社は中期経営計画「SPEED 25/30」フェーズ1の最終年度を迎えています。このフェーズ1では、2021年度から2024年度にかけて、主に韓国への投資を行い、有機EL材料やコロナ禍でのPCR診断キット材料などの高付加価値製品の業績が伸長しました。韓国における事業は半導体関連材料などで新たな顧客獲得にもつながり、機能性色素セグメントにおける売上の大半は、同国での事業が占めています。こうした投資が功を奏し、2025年度の売上高は目標に近づいています。一方で営業利益については当初計画との差が見られますが、これは国際情勢の不安定化による資源価格の高騰やインフレ、円安の進行に加え、当初の計画を上回る設備投資や研究開

保土谷化学ホームページのご案内

最新のIR情報・サステナビリティの取り組みについて掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

<https://www.hodogaya.co.jp/>

保土谷化学

検索



New Release

統合報告書 2025を
発行しました



発費の先行投資によるものです。今後も戦略的な投資を通じて持続的な成長基盤の強化に取り組むとともに、営業利益の改善にも一層注力してまいります。

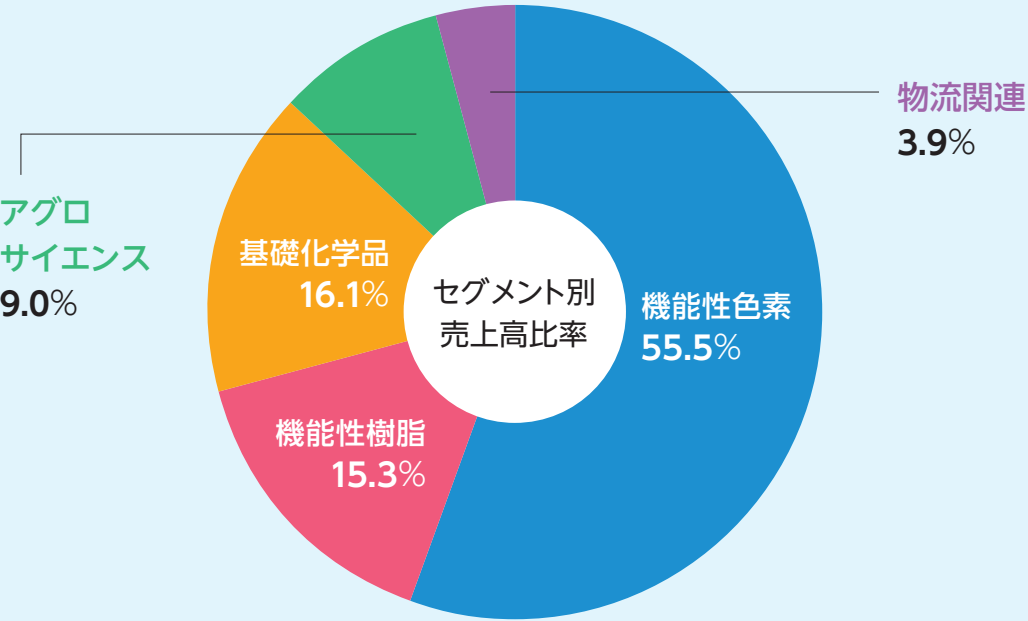
次期中期経営計画では、既存事業の強化として、機能性色素セグメントでの「アルミ着色用染料」やアグロサイエンスセグメントでの「酸素供給剤（過酸化水素の誘導体）」の国内製造設備の増強を進めるほか、新規事業への取り組みも計画しております。地政学リスクを軽減するだけでなく、国内市場にも新たな成長の可能性が見込まれるため、国内への成長投資に注力し、利益拡大を図ってまいります。中でも重要視しているのが、「半導体レジスト材料」と「核酸医薬分野」で、韓国で培った技術を基盤に日本市場での展開、設備投資を予定しています。これらの取り組みを通じ、積極的にイノベーションを加速し、保土谷化学の存在感と技術力を市場にアピールしていきたいと考えています。

当社では株主の皆様への利益還元を重視し、5期連続の増配を予想しています。しかしながら、現状ではPBRは1倍以下で推移しており、企業価値の向上は喫緊の課題となっております。今期も増配予想をしていますが、創出した利益は適切なキャピタルアロケーションを通じて設備投資と研究開発に積極的に充てることで、持続的な成長を追求していきます。

保土谷化学グループは、これからの100年も、化学技術を通じて「環境調和型的生活文化の創造」に貢献していきます。私たちのVISIONである「環境に優しいモノづくりを通じて、持続可能な社会の実現に貢献する」という軸は決して揺らぐことなく、そして「化学で夢のお手伝い」をあらためて当社グループのPURPOSE（存在意義）として位置付け、これからも挑戦を続け、未来を切り拓いていきます。株主の皆様には引き続き当社グループへの変わらぬご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

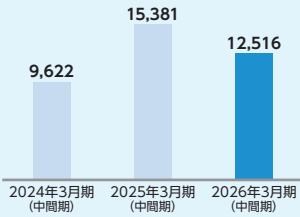
2025年12月

セグメント情報



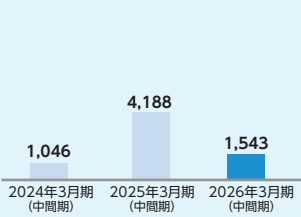
機能性色素

・売上高 (百万円)



強み	有機ELの各種材料をトータルで提案可能なラインナップ	世界シェアでトップクラスのアルミ着色用染料	世界オンリーワンのカラートリートメント染料
----	----------------------------	-----------------------	-----------------------

・営業利益 (百万円)



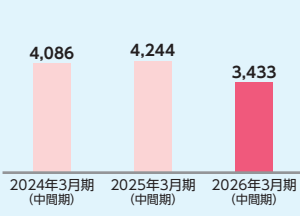
上期の概況

色素材料事業は、環境対応型アルミ着色用染料等の需要増加により、大幅な増収となりました。イメージング材料事業は、プリンター向け材料の一部海外需要が減少したため、減収となりました。有機EL材料事業は、前年同期においてスマートフォン向けに加えタブレット端末向けでの需要が集中したため、前年同期比では大幅な減収となりました。以上の結果、当セグメントの売上高は12,516百万円、営業利益は1,543百万円となりました。

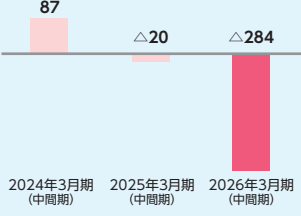


機能性樹脂

・売上高 (百万円)



・営業利益 (百万円)



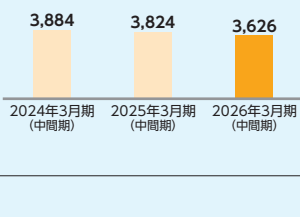
上期の概況

樹脂材料事業は、ウレタン材料で市況低迷の影響が続いているものの、新製品の需要が増加し、前年同期並みとなりました。特殊化学品事業は、剥離材向け及び医薬向けの需要が海外を中心に減少したため、大幅な減収となりました。建築材料事業は、ウレタン防水工事の受注減少等により、大幅な減収となりました。以上の結果、当セグメントの売上高は3,443百万円、営業損失は284百万円となりました。

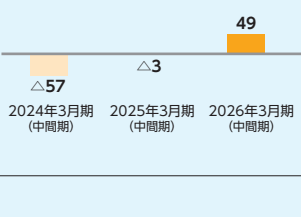


基礎化学品

・売上高 (百万円)



・営業利益 (百万円)



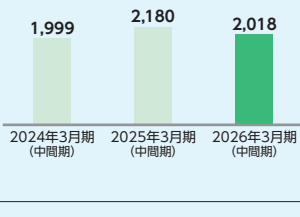
上期の概況

過炭酸ナトリウムは、漂白剤向けの需要が増加し、増収となりました。一方で、過酸化水素は、半導体向けの需要低迷の影響に加え、前四半期に発生した主要顧客での民事再生手続きを受けた紙パルプ向けの販売減少により、減収となりました。以上の結果、当セグメントの売上高は3,626百万円、営業利益は49百万円となりました。

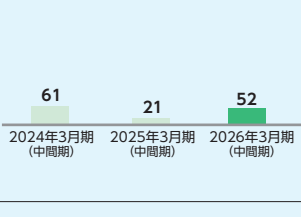


アグロサイエンス

・売上高 (百万円)



・営業利益 (百万円)



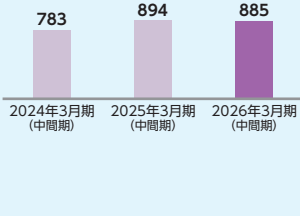
上期の概況

除草剤は、ゴルフ場向けや家庭園芸向けの需要が減少したため、減収となりました。以上の結果、当セグメントの売上高は2,018百万円、営業利益は52百万円となりました。

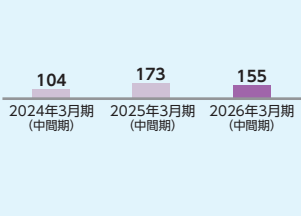


物流関連

・売上高 (百万円)



・営業利益 (百万円)



上期の概況

国内及び輸出入向けの荷動きが若干減少したものの、前年同期並みとなりました。以上の結果、当セグメントの売上高は885百万円、営業利益は155百万円となりました。



TOPICS

韓国連結子会社2社の合併と株式上場準備開始について

当社の連結子会社であるSFC CO.,LTD.(韓国)とREXCEL CO.,LTD.(韓国)は、SFCを存続会社、REXCELを消滅会社として、2025年7月1日に吸収合併を行いました。本合併により、両社の経営資源を統合し、人的資本を効率的に活用するとともに、事業機能を強化することで、グループ全体の相乗効果を高め、収益基盤の拡大を目指しております。

SFCは、これまでにBio事業に係る研究開発・生産拠点である「BioPark」を新設、稼働させ、旧REXCELの忠州キャンパスでは第2工場を新設し有機EL材料事業での増設を行うなど、事業拡大を進めておりますが、人員増やスペース不足への対応としてオフィスや会議室、社員食堂等のコミュニティーセン

ターと出荷等を担うストレージセンターの建設も開始し、2025年度中の完成を目指しております。

また、SFCは韓国取引所証券市場(KOSPI)への株式上場に向けた準備を開始し、2025年9月30日に对外発表いたしました。(なお、株式上場に際しては韓国関係当局の承認を前提とすることに加え、上場の予定時期、市場等については決定したものではありません。今後の進捗状況を踏まえ、開示すべき事由が発生した場合には適宜公表してまいります。)

SFCが強みを持つ有機EL・青色発光材料等は、現在スマートフォン需要を中心とする有機ELディスプレイが、今後、タブレットやパソコン等の中型ディスプレイにも適用が拡大されることにより、更なる成長が見込まれております。需要拡大への対応のため各種投資も必要となり、上場によって、SFCが計画的な生産能力増強等を進めるにあたっての資金調達に柔軟性が高まり、また、企業認知度の向上による優秀な人材獲得を継続し、新たな材料等の研究開発をさらに進めていくことが可能になると考えております。

保土谷化学、4年連続でEcoVadis社のシルバーメダルを受賞

当社は、EcoVadis社(本社：フランス)が提供するサステナビリティ評価において、4年連続で「シルバーメダル」を獲得しました。EcoVadis社は、2007年の設立以来、185か国・250業種・15万社以上の企業に対してサステナビリティ評価サービスを提供しておりますが、当社は、環境、労働と人権、倫理、持続可能な資材調達という評価指標において、世界の上位15%以内に位置する企業として認められました。

当社の経営理念は「化学技術の絶えざる革新を通じて、お客様が期待し満足する高品質の製品・サービスを世界に提供し、環境調和型の生活文化の創造に貢献する」ことです。この理念のもと、「化学で夢のお手伝い／Your Dream Is Our Business」をコーポレートメッセージとして、それぞれの事業分野から創出された価値を通じて社会課題を解決し、サステナブルな社会の実現に貢献してまいります。

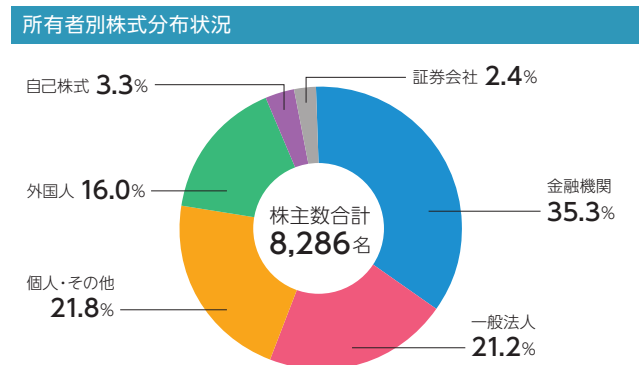


完成予想図

会社概要／株式の状況 (2025年9月30日現在)

会社概要	
社名	保土谷化学工業株式会社
英文社名	Hodogaya Chemical Co., Ltd.
本社所在地	〒105-0021 東京都港区東新橋一丁目9番2号 汐留住友ビル
設立	1916(大正5)年12月11日
資本金	111億96百万円
従業員	952名(連結)・485名(個別)

株式の状況	
発行可能株式総数	40,000,000株
発行済株式の総数	16,827,452株
株主数	8,286名



株主メモ	
事業年度	毎年4月1日～翌年3月31日
剰余金の配当基準日	3月31日(中間配当を行う場合は9月30日)
定時株主総会	毎年6月中
単元株式数	100株
株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目3番3号 みずほ信託銀行株式会社
公告方法	電子公告(https://www.hodogaya.co.jp/) ただし、やむを得ない事由によって、電子公告による公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。

株式事務に関するお問い合わせ先		
	証券会社等で株式を保有されている場合	証券会社等で株式を保有されていない場合(特別口座の場合)
住所変更、株式配当金受取り方法の変更及び マイナンバーのお届出などのお問い合わせ	お取引の証券会社等になります。	みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 ホームページ https://www.mizuho-tb.co.jp/daikou/index.html フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く 9:00～17:00) 電子提供制度専用フリーダイヤル 0120-524-324 (土・日・祝日を除く 9:00～17:00)
未払配当金、その他当社株式関係書類について のお問い合わせ	右記みずほ信託銀行までお問い合わせ 願います。	
株主総会資料の電子提供制度(書面交付請求) についてのお問い合わせ	お取引の証券会社または右記みずほ信託 銀行までお問い合わせ願います。	
ご注意		特別口座では、単元未満株式の買取・買増以外の株式売買はできま せん。株式の売買にあたっては、証券会社等に口座を開設し、株式の 口座振替手続を行っていただく必要があります。
株式等に関するマイナンバーのお届出のお願い	・株式等の税務関係のお手続に関しては、マイナンバーのお届出が必要です。 ・お届出が済んでいない株主様は、上記お問い合わせ先へマイナンバーのお届出をお願いします。	

特別口座とは：2009年1月5日に実施された株券電子化までに、証券会社を通じて株券を証券保管振替機構(ほふり)に預けていない場合に、株主様の権利を保全するために当社がみずほ信託銀行に開設した口座です。

役員		
代表取締役社長 兼 社長執行役員	松本	祐人
取締役 兼 常務執行役員	横山	紀昌
取締役 兼 常務執行役員	佐藤	伸一
取締役(監査等委員)	松野	真一
社外取締役(監査等委員)	坂井	真樹
社外取締役(監査等委員)	藤野	しのぶ
社外取締役(監査等委員)	松永	明

大株主		
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	1,679	10.3
東ソー(株)	1,400	8.6
(株)みずほ銀行	597	3.7
MSIP CLIENT SECURITIES	535	3.3
農林中央金庫	454	2.8
(株)日本カストディ銀行(信託E口)	370	2.3
RE FUND 107-CLIENT AC	358	2.2
明治安田生命保険(相)	329	2.0
日本証券金融(株)	321	2.0
(株)東邦銀行	296	1.8

※当社は自己株式(551,158株)を保有しておりますが、上記大株主からは除いております。
(株)日本カストディ銀行(信託E口)の所有株式は、業績連動型株式報酬(BBT)及び株式給付信託(J-ESOP)の導入に伴う当社株式であります。



森林管理協議会(Forest Stewardship Council®)で認証された適切に管理された森林からの原料を含む、FSC®認証紙を使用しています。